

I. 神奈川県内 a. 関東ローム層

(19) 富士宝永スコリア 露頭剥ぎ取り標本 (大磯町西小磯)

標本番号 KPM-NP 19

標本名 富士宝永スコリア 露頭剥ぎ取り標本

大きさ 幅 0.25 m, 高さ 0.25 m

重量 1.4 kg (板付き)

形状・展示・収納状況 板に固定した状態で大型移動
棚に収蔵

採集地 神奈川県中郡大磯町西小磯

緯度・経度 N35°19'19", E139°17'49"

標高 60 m

露頭の種別と現状 畑内の自然露頭、現存

露頭面の向き、傾斜 おおむね E-W、ほぼ垂直

堆積物の種別 降下テフラ (陸成層)

年代 1707 年 (富士宝永テフラ)

採集作業者 山下浩之、笠間友博、石浜佐栄子

採集日 2007 年 7 月 31 日

関連文献等 宮地直道 (1984) 富士火山 1707 年火砕物の降
下に及ぼした風の影響, 火山 (第 2 集), 29:17-30.解説 標本採取場所の大磯町西小磯は富士火山宝永火
口の東南東約 45 km にある。大磯丘陵南部の緩斜面
で採取した。富士宝永 (F-Ho) テフラはスコリアを
含む火山灰土層の上に堆積し、上部は表土に覆われている。宮地 (1984) は富士宝永テフラを Ho I ~
IV に区分し、Ho I 下部の粗粒軽石からなる Ho I a
について、粒径の分布軸が分布域の南縁に偏ってい
ることを指摘した。大磯町西小磯はその南縁部に近
い位置にある。粗粒な軽石が目立つのは、このため
である。この粗粒軽石は上下に散っており、堆積物
には乱れが見られるが、標本中央部では Ho II、III
の上に Ho IV が堆積している構造が残っている。

記録者 笠間友博

図 1a-19-1. 採集地点 (国土地理院発行の数値地図 50,000 (地
図画像)「埼玉・東京・神奈川」を使用)。

図 1a-19-2. 剥ぎ取り標本の採集露頭。

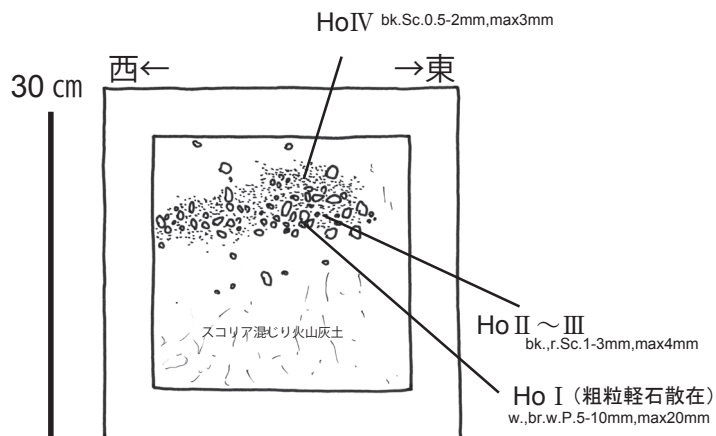


図 1a-19-3. 剥ぎ取り標本の写真 (左) とスケッチ (右, 笠間原図)。